



記者の視点



釧路報道部 いわい 潤

本稼働から1年以上たつ釧路火力発電所(釧路市興津、出力11万2千キロワット)から出る騒音が、近隣住民を悩ませている。蒸気を逃がす際にジェット音のような騒音が発生し、隣接する市営住宅では騒音を理由に引っ越し世帯も出た。火発側は防音壁設置などを急ぐが抜本的な対策とは言えず、火発と公害防止協定を結ぶ釧路市も消極的な対応が目立つ。火発は国内唯一の坑内掘り探炭を続ける釧路コールマイン(KCM、釧路市)の石炭を主原料とし、地域産業を支える役割もあるだけに、市が問題解決へ主体的な役割を果たさなければならない。

釧路火力発電所の騒音問題

釧路火力発電所は2020年6月の試運転時から騒音が何度か起きていた。隣接する市営住宅に住む吉田信(さん)は「火発が責任を持って対応してもらわないと、生活を営むことができない」と憤る。 釧路火力発電所はKCMと太平洋興産など4社が計画し、東京の投資ファンドが設立した「釧路火力発電所」が運営。KCMの石炭を年20〜25万トン使う「地産地消型」の発電所として、20年12月に本格稼働した。

騒音はボイラー内の大気放散弁付近から発生することが多く、本稼働後の昨年10月にも、市の公害防止協定の基準(60〜70分)を上回る最大81分の騒音が断続的に1時間半近く続いた。市営住宅では騒音を理由に昨年、2世帯が引っ越した。

住民の苦情を受け、火発は大気放散弁を高さ4・5mの防音壁を設置を進めている。近く完成する予定だが、低減効果は10分程度。石炭採掘社社長は近隣町内会への3月中旬の住民説明会で、騒音計の増設などさらなる対策を取る考えを強調したものの、住民たちからは「対応

解決へ 市は積極的関与を

釧路火力発電所の騒音を巡る主な経過

Timeline table showing noise incidents from 2020 to 2022, including dates and descriptions of events like noise measurements and resident meetings.



が運ずる上、対策は不十分。何度も改善を要望してきたのに、不満の雨が上がると、抜本的な解決策が見いだせない中、間に立つ市の対応も及ばない。また、協定に基づく市の検査は年々回の定期的なものに限られるが、検査時以外に何度か騒音が起きていた。定期検査の回数を増やすなどの協定見直しや、立ち入り調査といった踏み込んだ対応も必要ではないか。 釧路の基幹産業は資源に立た

地域医療衰退懸念

入学者確保に苦慮 管内の出願者が年々減少

管内の小中学校の入学希望者数が年々減少している。これは、少子化や大学志向要因によるもので、地域医療の衰退も懸念されている。...

23年度以降募集停止 専門学校の入学者減で存続困難

専門学校の入学者数が減少し、存続が困難な状況にある。募集停止の検討が進んでいる。...

人口減 見当たらず打開策

夕張市7千人割れ



夕張市の人口(住民基本台帳)が3月末で7千人を割り、人口減少が深刻化している。市は打開策を模索しているが、見当たらずの状況が続いている。...

コンパクトシティ化急務

コンパクトシティ化の急務を訴えている。人口減少と地域活性化の両立が求められる。...

高坂板金店の事業承継

岩見沢の板金業ナミキが、高坂板金店の事業を承継した。技術向上で相乗効果を生むと期待されている。...

前年度 業績も

前年度の業績に関する情報が提供されている。...